第11回　高校第11回卒業　県陵イレブンス会

甦る青春

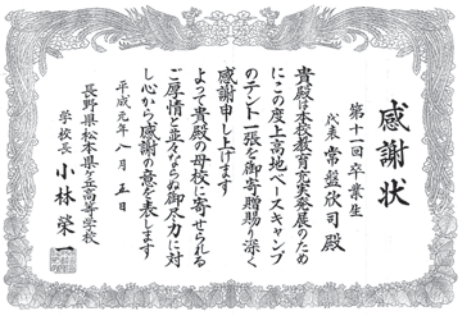
祝母校創立65周年
平成元年５月28日

■平成元年４月15日　記念式典：松本県ヶ丘高等学校体育館　祝賀会：レストラン タツミ亭

■記念講演

演題：三千キロも歩くチベットの巡礼達
講師：同志社大学教授　玉村　和彦

寄贈図書



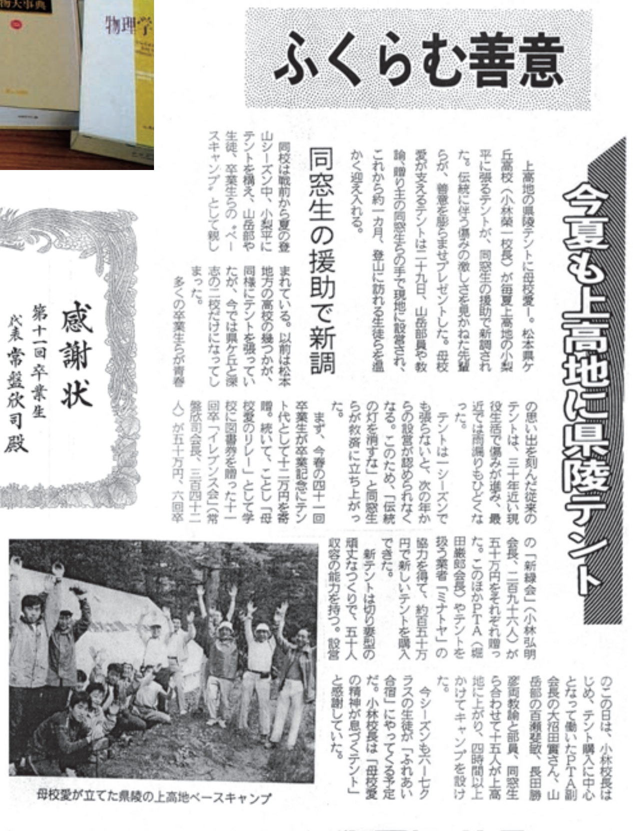
感謝状

第十一回卒業生
代表　常盤欣司殿

貴殿は本校教育充実発展のためにこの度上高地ベースキャンプのテント一張を御寄贈賜り深く感謝申し上げます
よって貴殿の母校に寄せられるご厚情と並々ならぬ御尽力に対し心から感謝の意を表します

平成元年八月五日
長野県松本県ヶ丘高等学校
学校長　小林榮一

寄贈品



ふくらむ善意

今夏も上高地に県陵テント

上高地の県陵テントに母校愛ー。松本県ケ丘高校（小林榮一校長）が毎夏上高地の小梨平に張るテントが、同窓生の援助で新調された。伝統に伴う傷みの激しさを見かねた先輩らが、善意を膨らませプレゼントした。母校愛が支えるテントは二十九日、山岳部員や教諭、贈り主の同窓生らの手で現地に設営され、これから約一カ月、登山に訪れる生徒らを温かく迎え入れる。

同窓生の援助で新調

同校は戦前から夏の登山シーズン中、小梨平にテントを構え、山岳部や生徒、卒業生らの"ベースキャンプ"として親しまれている。以前は松本地方の高校の幾つかが、同様にテントを張っていたが、今では県ケ丘と深志の二校だけになってしまった。

多くの卒業生らが青春の思い出を刻んだ従来のテントは、三十年近い現役生活で傷みが進み、最近では雨漏りもひどくなった。

テントは一シーズンでも張らないと、次の年からの設営が認められなくなる。このため、「伝統の灯を消すな」と同窓生らが救済に立ち上がった。

まず、今春の四十一回卒業生が卒業記念にテント代として十二万円を寄贈。続いて、ことし「母校愛のリレー」として学校に図書券を贈った十一回卒「イレブンス会」（常盤欣司会長、三百四十二人）が五十万円、六回卒の「新緑会」（小林弘明会長、二百九十六人）が五十万円をそれぞれ贈った。このほかPTA（堀田巌郎会長）やテントを扱う業者「ミナトヤ」の協力を得て、約百五十万円で新しいテントを購入できた。

新テントは切り妻型の頑丈なつくりで、五十人収容の能力を持つ。設営のこの日は、小林校長はじめ、テント購入に中心となって働いたPTA副会長の大沼田實さん、山岳部の百瀬琴敏、長田勝彦両教諭と部員、同窓生ら合わせて十五人が上高地に上がり、四時間以上かけてキャンプを設けた。

今シーズンも六ー七クラスの生徒が「ふれあい合宿」にやってくる予定だ。小林校長は「母校愛の精神が息づくテント」と感謝していた。

母校愛が立てた県陵の上高地ベースキャンプ

平成元年（1989年）（第三種郵便物認可）　7月30日（日）　市民タイムス

■記念祝賀会

御輿担いで入場

祝県陵イレブンス会卒業30周年記念祝賀会
来賓

祝賀会場

祝
卒30
イレブンス会

熟女８人

昭和34年３月卒業以来、２～３回同期会を開催しましたが、昭和50年にイレブンス会として新発足し、以来毎年開催をして来ました。東京の仲間は「三四県陵会」の愛称でこれまた活躍しています。卒業40周年では“展１”の展覧会、還暦には“展２”を開催し、その存在を世にアピールして来ました。342名の卒業仲間も既に43名黄泉に入られています。平成21年には卒業50周年を迎えます。県陵イレブンスの意気軒昂ぶりを示したいものです。

縣陵三四会（ミヨ）

巣山 英毅
（高11回卒）

〒178-0062
東京都練馬区大泉町6-11-6
Tel 03(3925)0244　Fax 03(3867)5171

東京県陵会
三四県陵会